

Editor's eye

・特集・

真菌症2021

編集担当 浅井 俊弥

動画 Editor's eye
を始めました。

下記よりアクセスください。



<https://vimeo.com/568334860>

COVID-19パンデミック下の“universal masking”の効果で、昨冬はインフルエンザの流行がなかった。風疹や夏場の手足口病の発症も少なく、UVによる誘発が少なかったためか口唇ヘルペスの患者も少なかったように思う。ウイルス感染症の発症はヒトを取り巻く環境によって大きく左右されることが明らかとなった。さて、真菌症はどうだろう。

グローバル化によって本邦でみられるようになった *Trichophyton tonsurans* (*T. tonsurans*) や、ペットブームの影響でヒトに感染をおこすようになった *Arthroderma benhamiae* (*A. benhamiae*) などが目新しい。一方でスポロトリコーシスは減少傾向で、獨協医科大学で45年間に経験した症例の統計からも明らかである。

高齢化や難治性疾患の治療のために生じる免疫抑制状態では、しばしば真菌感染症が問題となる。今回はここ4～5年の間に学会で報告された真菌症をピックアップさせていただいたが、アスペルギルス症、アルテルナリア症、クリプトコックス症、コクシジオイデス症、深在性皮膚カンジダ症、セドスポリウム症が出そろった。いずれも特異的な皮膚病変ではないが、まずこれらの疾患を疑うこと、そして病理検査と培養をしつこく行うことの重要性をあらためて再確認した。とくに病院勤務医にとって他科からの依頼があった際にこれらを見逃さない心構えが必要で、大いに参考になるのではないかなと思う。